



「満天星^{どうだん}つつじと離れ座敷」

今年も七十七回目の終戦記念日を迎えます。二度と戦争による悲しみを起こさないことを誓ったのにもかかわらず、現代においてもロシアのウクライナ侵攻をはじめ、世界各地での紛争が絶えません。今でも戦争がなくならないことはとても痛ましいことですが、一方で私たち人間の歴史は、いつも戦争や迫害などの暴力を繰り返してきました。そこには暴力を行使し、それを容認してしまふ、私たち人間そのものが抱える問題性があるからではないでしょうか。

仏教には不殺生戒^{ふせつしょうかい}という戒律があり、『法句経^{くきょう}』というお経の中では次のように説かれています。

「己が身にひきくらべて」というのは、暴力によって殺される側に自分の身を置いて考えてみるということです。そしてそれは同時にそのような暴力を行使しようとする私たち自身の愚かさを知ることでもあります。

仏教の教えは私たち人間の姿をじっと見つめてきました。不殺生戒の言葉は、私たち人間の中に潜む暴力性に対しての戒めでありますが、それはどこかの誰かに向けられた言葉ではなく、人間としての身を生きる私自身に向けられた言葉なのです。

無自覚な暴力や差別ほど恐ろしいものはありません。そこには罪の意識も慚愧の念も起きてこないからです。戦争、貧困、差別などの様々な問題を抱える現代社会だからこそ、「己が身にひきくらべて」、他人事にせずきちんとして向き合い、すべての人々が安心して生きていける平和な世界を願っていききたいものです。

真宗大谷派

願興寺だより

第 84 号

2022年（令和4年）

8月1日発行

発行者
願興寺

長岡市関原町1丁目1019

〒940-2035

TEL 0258-46-2316

FAX 0258-46-7499

<https://gankouji.org/>



巻頭言

己が身にひきくらべて

願興寺住職 高橋 深恵

すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ。

すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとって生命は愛しい。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。

報告 二〇二二年

お取越 報恩講

去る五月二十八日、二十九日の日程でお取越報恩講が勤まりました。今年は土日でしたので、お仕事などで普段お参りできない方も多く見受けられました。



初めての

お取越報恩講

太田伸之氏

静寂な本堂で十名を超すお坊さま達の「正信偈」が静かに始まった時、「ああこれがお取越報恩講のお勤めか」と思い、厳かな雰囲気に入ろうと目をつぶって聞いておりましたが、しばらくすると突然お坊さま達が腹の底から声を張り上げて唱和され始めました……。

五月二十八日(土)うらかな初夏の午後、初めて「お取越報恩講」にお参りさせていただきました。聞きしに勝る圧巻の法要でした。

報恩講は浄土真宗の門徒にとつて最も大切な法要と伺っておりますが、お坊さま達が宗祖親鸞聖人の遺徳を偲び、脈々と受け継がれてきたお念仏の重みを感じました。





法話（佐野 明弘 師）

法要中は波打つように抑揚を付けてお念仏を唱和されるので、手元にある「真宗大谷派勤行集」を目で追いつながら、次はどこで声が大きくなるのだろうとヤマをかけているうちにお勤めは終わりました。マスク姿のお坊さま達の血圧が急に上がり気分が悪くなるのではないかと余計な心配もしてしまいました。

三年前に父が逝き、あとを追うように二年前に母が逝ってから願興寺様とご縁も多くなり、自宅の仏壇で手を合わせる時間も増えている昨今、自分も門徒の一人なんだと再認識する良い機会をいただきました。

これをご覧になっている私（六十二歳）より若い皆様、是非来年はこの大空間でお坊さま達がお念仏を大唱和している姿をご覧になってはいかがでしょうか。お父様やお母様にお寺向きの用事はお任せしている方もいられると思いますが、コンサートや演劇を鑑賞する感覚でお出かけになつてはいかがですか。きつと感動しますよ。

それにしても、来年こそはマスク無しのお坊さま達のお念仏をお聞きし再感動を味わいたいものだなと思いつながら願興寺様をあとにしました。

仏事二口メモ

—「御絵伝」について①—

毎年のお取越報恩講では「御絵伝」と呼ばれる親鸞聖人のご生涯を描いた絵巻物が掛けられます。今回から「御絵伝」を見ながら、親鸞聖人のご生涯に触れていきたいと思えます。

下の図は養和元年（一一八一）に九歳になられた親鸞聖人（幼名 松若麿）が出家（得度）をされるために青蓮院に入られた場面です。青蓮院は京都粟田口にある比叡山延暦寺の別院です。

この場面では、すでに親鸞聖人は青蓮院の中にお入りになった後ですが、居眠りをしている傘持ちと沓持ち（中央）や、折掛垣の前で笑い騒ぐ五人組（左下）など、人物一人一人の動きや表情が丁寧に描かれています。



〔親鸞聖人御絵伝〕
一幅目一段 願興寺蔵

報告

願興寺

お茶会

毎年恒例となりました「願興寺お茶会」が去る六月二十六日に開催されました。

今年には空梅雨で、当日も気温は少し高めでありましたが、総勢四十名以上の方からお越しいただきました。

また今回は子供さんからも参加いただき、日本の伝統に触れていただく機会にもなりました。



何かと不安が続く昨今。お茶会に足を運んでいただき、たまには喧噪を離れ、ゆっくりとした時間を過ごしてみたいかがでしょうか。



法話「一ナー」

『仏説無量寿経』

について 24

《原文》

自然の妙声、その所応に隨いて聞こえざる者なけん。あるいは仏の声を聞き、あるいは僧の声を聞く。あるいは寂靜の聲、空無我の聲、大慈悲の聲、波羅蜜の聲、あるいは十力・無畏・不共法の聲・諸通慧の聲、無所作の聲、不起滅の聲、無生忍の聲、乃至、甘露灌頂、もろもろの妙法の聲、かくのごときらの聲、その所聞に稱いて、歡喜すること無量なり。清淨・離欲・寂滅・眞実の義に隨順し、三宝・力・無所畏・不共の法に隨順し、通慧、菩薩・声聞所行の道に隨順し、三塗苦難の名あることなし。但自然快樂の聲あり。このゆえにその国を名づけて安樂と曰う。

《現代語訳》

「浄土に自然に起こる妙なる声は、願いに応じて聞こえないことがない。あるいは仏についての声を聞き、あるいは法についての声を聞き、あるいは僧についての声を聞く。またあるいは涅槃についての声、空、無我についての声、大慈悲についての声、六波羅蜜についての声、あるいは十力・四無所畏・十八不共法についての声、六神通についての声、無所作についての声、不起滅についての声、無生忍についての声、甘露灌頂（十地菩薩）についての声、さまざまの妙法についての声など、このような声を聞いて、無量の喜びを味わうのである。清淨・離欲・寂滅・眞実の教えにかなない、神通力や菩薩・声聞の修行にかなうのである。浄土には、地獄・餓鬼・畜生という名前すらないのである。ただ自然に起こる喜びの声だけがある。そのため、その国を安樂国（極樂浄土）と名づけるのである、と。」

これまで浄土の様子について語られてきましたが、今度は声が聞こえてくるわけです。これは浄土の出来事なのです。

「寂靜」

寂靜とは涅槃。すべての煩惱が消えうせた状態です。

「空無我」

空とは一切のこだわりを捨ててしまうこと。無我とは自我を否定するということ。

「十力・無畏」

仏が備えている十のすぐれた力。無畏は無所畏といいますが、自信ということですが。

「無所作・不起滅」

自分の心の中にこだわりがなければ、何事も起こらないし何事も滅びないし、なくならないということですが。

「無生忍」

これは菩薩の覚りなんです。無生とは生ずることがないということだから、滅することがないわけです。これは実は死なんです。ところが私たちは「死」というものを

突き付けられると、そのような眞実に気づかされると、怖れるですね。そのような眞実に対して、忍、耐えられる力をもっている。これが菩薩の徳であります。

これまでが『無量寿経』の「上巻」でありまして、浄土について語られました。「下巻」では我々衆生のことが問題となってきました。そちらの方が実は重要なんです。浄土が立派なところだといくら言い聞かせてもらっても、私に直接関係があるのかわからないか、わからないではないですか。それが私とどう関係があつて、私がいまここに生きていくのか、ということをはっきりさせる必要があります。それが「下巻」において語られていくのであります。

古田和弘師 講述

『仏説無量寿経』より抜粋

雨虹会

寿恵書道教室

ご案内

この度、願興寺を会場に書道教室を開催させていただくことになりました。

本格的に書道を習いたい方は勿論、祝儀袋などの表書きを上手に書けるようになりたい方や新しいことを始めたいとお考えの方など、遠慮なくご参加下さい。初めての方も大歓迎です。

日時 毎週月曜日

午後二時～午後三時

都合により日程を変更することがあります。参加される方はご確認ください。

会費 一、〇〇〇円(一回)

定期的に習いたい方はご相談下さい。

講師 根岸寿恵 先生

(全日本書芸文化院 雨虹会理事)

会場 願興寺庫裏



ご案内 初めてのヨガ教室

願興寺では毎月一回ヨガ教室を開催しています。

初めて参加の方も、そうでない方も皆さんが一緒にできる範囲で楽しめる教室です。運動不足解消のため、ぜひヨガを始めませんか。

今後の予定

- 八月三十一日(水)
- 九月二十一日(水)
- 十月十一日(火)
- 十一月三十日(水)
- 十二月二十一日(水)

時間 十二時開場
十二時半開始

会場 願興寺庫裡

持ち物 飲み物・タオル



秋季彼岸法要 永代供養墓 合同法要

ご案内

左記の日程にて秋季彼岸法要が勤まります。併せて永代供養墓「清風精舎」の合同法要を勤めさせていただきます。

この度も法要後にミニコンサートを予定しております。ご多用中とは存じますが、お誘い合わせの上、お参り下さい。

記

日程 九月二十五日(日)

- 午前九時 受付
- 午前九時半 永代供養墓 合同法要
- 午前十時 秋季彼岸法要
- 午前十時半 法話
- 午前十一時 ミニコンサート
- 正午 終了

お斎(昼食)はお持ち帰り用のお弁当をご用意いたします。以上

願興寺 秋の旅 赤倉温泉と 有縁講の旅

心が濁れば、行いも汚れ、行いが汚れると、苦しみを避けることができない。心を清め、行いを慎むことが人間としての要である

仏教聖典より

今年も赤倉ホテルで開催される有縁講に参加いたします。有縁講は法話を聞き、温泉につかって、多くの人たちに身や心を癒してもらうために開かれる会です。

年末の慌ただしさを迎える前に、ゆつくり体を休めるひと時となればと思います。

期日 十一月二十四、二十五日

参加費 二二、〇〇〇円

申込書もしくはお電話にてお申し込み下さい。

2022年上半期 行事報告

2022年1月～2022年6月

- 1月1日 修正会
- 2日 年頭法会
- 4日 寺年始
- 26日 初めてのヨガ教室
- 2月2日 前坊守祥月命日
- 3日 前々坊守祥月命日
- 5日 前々住職祥月命日
- 13日 会計監査・第1回役員会
- 16日 初めてのヨガ教室
- 3月30日 初めてのヨガ教室
- 4月20日 初めてのヨガ教室
- 26日 事務局発送作業
- 5月18日 初めてのヨガ教室
- 22日 第2回役員会
- 28日～29日 お取越報恩講
- 29日 前坊守祥月命日
- 6月6日 書道教室
- 20日 書道教室
- 26日 願興寺お茶会
- 27日 書道教室
- 29日 初めてのヨガ教室



2022年下半期 行事予定

2022年7月～2022年12月

- 7月5日 お経会①
- 6日 総代責役会
- 10日 第3回役員会
- 19日 お経会②
- 26日 初めてのヨガ教室
- 27日 盆参 講師 松野秀則 師
- 8月1日 盆参 講師 佐々木恵一郎 師
- 7日 盆参 講師 今泉温資 師
- 9日 お経会③
- 13日～16日 盂蘭盆会
- 18日 墓地清掃 (お盆片づけ)
- 23日 お経会④
- 31日 初めてのヨガ教室
- 9月6日 お経会⑤
- 20日 お経会⑥
- 21日 初めてのヨガ教室
- 25日 秋季彼岸・永代供養墓合同法要
- 10月4日 お経会⑦
- 11日 初めてのヨガ教室
- 18日 お経会⑧
- 11月1日 お経会⑨
- 13日 永代経法要
- 15日 お経会⑩
- 24日～25日 願興寺秋の旅行
赤倉ホテル 有縁講
- 30日 初めてのヨガ教室
- 12月初旬 第4回役員会
- 21日 初めてのヨガ教室
- 31日 除夜の鐘

告知

願興寺開基六〇〇年・ 親鸞聖人七五〇回御遠忌法要

2024年(令和6年)5月26日(日) 厳修

詳細については随時お知らせいたします。

おくやみ

令和四年一月〜令和四年五月

ご生前のご功労を偲び、

謹んで哀悼の意を表します。

- 一月十五日 大積三
- 一月十九日 関原南
- 一月二十二日 関原一
- 二月九日 寺島
- 二月十日 上条町
- 三月五日 希望ヶ丘
- 三月七日 関原二
- 三月二十六日 上除
- 三月二十八日 長峰
- 四月七 宮本東方
- 四月二十二日 宮本三
- 四月二十三日 大山
- 五月四日 大山
- 五月八日 北山
- 五月十一日 宮本三
- 丸山 トミイ 九十八歳
- 佐藤 久治 八十五歳
- 大石 政治 八十八歳
- 丸山 道 九十六歳
- 若月 一彬 八十六歳
- 桜井 千代栄 七十四歳
- 中山 ちよい 九十歳
- 池田 榮子 八十七歳
- 荒木 みよ 一〇五歳
- 川口 尚英 八十九歳
- 布川 喜美代 九十四歳
- 郷 昌一 七十歳
- 丸山 はるみ 六十一歳
- 田村 孝 八十一歳
- 布川 源治 九十四歳



お経会のご案内

お経会は、復習から始まり
ゆっくり丁寧に進めています。
午後七時三十分からですので、
お仕事帰りや夕飯後の空いた
時間に練習してみませんか？
皆様のご参加をぜひお待ちし
ております。

第十八期お経会 予定

- 第一回 七月五日(火)
 - 第二回 七月十九日(火)
 - 第三回 八月九日(火)
 - 第四回 八月二十三日(火)
 - 第五回 九月六日(火)
 - 第六回 九月二十日(火)
 - 第七回 十月四日(火)
 - 第八回 十月十八日(火)
 - 第九回 十一月一日(火)
 - 第十回 十一月十五日(火)
- ▼ 隔週火曜(全十回予定)
▼ 午後七時三十分〜九時
▼ 事前申し込み不要

編集後記

資格を取りたいと入学した三条真宗学院も残りあと少しとなりました。

毎週土曜日に三条までの通学は、お寺の仕事や子どものお世話など、全てにおいて周りの協力無くしては実現出来なかつたと感謝しています。

一緒に学んでいる学院生は様々で、実家の寺を継ぐために資格を取りに来た方や、たまたま通っていたお寺の住職から入学を勧められた方、私と同じように在家からお寺に入った方など、それぞれ立場が違う人ばかりです。しかし彼らの思いや悩みを聞いたり、逆に私の悩みを聞いてもらったりして、仏教の勉強は勿論ですが、それ以上に得るものが大きかったように思います。

この歳で出来た学友たちをこれからも大切にしたいです。

編集委員 高橋智美